

- 問1 世界の大陸における気候区分別の面積割合を比較した統計において、亜寒帯（冷帯）が約43%、寒帯が約24%を占め、大陸全体の6割以上が寒冷な気候に属しているという特徴を持つ大陸はどれですか。（2020年 福岡県公立入試 類似）
1. 南アメリカ大陸 2. アフリカ大陸 3. 北アメリカ大陸 4. オーストラリア大陸
- 問2 世界の農産物生産量において、大豆の32.5%、とうもろこしの35.2%という極めて高い世界シェアを占める一方、小麦のシェアは10.6%にとどまり、カカオ豆の生産がほとんど行われていない地域はどこですか。（2026年 福岡県公立入試 類似）
1. 南アメリカ州 2. 北アメリカ州 3. ヨーロッパ州 4. 東南アジア
- 問3 国土面積が約27万km<sup>2</sup>、排他的経済水域が約483万km<sup>2</sup>であるニュージーランドの統計と比較したとき、約983万km<sup>2</sup>という世界有数の広大な国土面積を持ち、かつ、それと同時に世界トップクラスの広さを持つ排他的経済水域を併せ持っている国を次の中から選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）
1. イタリア 2. 日本 3. アメリカ合衆国 4. ブラジル
- 問4 アメリカ合衆国の農業について、地域ごとの気候条件と生産されている農産物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 佐賀県公立入試 類似）
1. 冬でも温暖な南東部の地域では、冷涼な気候を好む乳牛の飼育が中心となっている。
2. 五大湖周辺の冷涼な地域では、乳牛を飼育して生乳やバターなどを生産する酪農が盛んである。
3. 五大湖周辺の地域では、夏季の乾燥した気候を活かしてぶどうやオレンジなどの果樹栽培が広く行われている。
4. 地中海性気候に近い西海岸の地域では、温暖な気候を利用して綿花の栽培が大規模に行われている。
- 問5 アメリカ合衆国は日本にとって極めて重要な貿易相手国です。アメリカ合衆国から日本へ輸出される品目の特徴とその背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）
1. 熱帯の気候を生かし、天然ゴムやカカオなどの原料産品が日本への輸出の多くを占めている。
2. 広大な国土と高度な技術を背景に、トウモロコシなどの農産物や航空機などが多く輸出されている。
3. 豊富な石油資源を背景に、原油や液化天然ガスが日本への輸出額の大部分を占めている。
4. 安価な労働力を背景に、衣類や玩具などの労働集約的な製品が日本への輸出の中心となっている。
- 問6 世界の総人口に対する割合（約7.9%）と比較して、二酸化炭素の排出割合（約20.1%）が顕著に高い南アメリカ州の状況について、その背景にある環境問題の説明として適切なものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 世界最大の人口を抱えているため、生活排水による水質汚濁と同時に排出量も増加している。
2. 乾燥帯が広がる地域で過放牧が行われた結果、砂漠化が進行し、二酸化炭素の固定能力が低下した。
3. アマゾン盆地を中心とした広大な熱帯林の減少により、二酸化炭素の吸収源が失われている。
4. 極地に近い地域で永久凍土の融解が急速に進み、地中に閉じ込められていたガスが放出されている。
- 問7 2020年の主要国の貿易状況について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。（2024年 茨城県公立入試 類似）
1. フランスとアメリカ合衆国は、工業が発達しているため、ともに自動車の輸出額が輸入額を大きく上回っている。
2. アメリカ合衆国とフランスでは、輸入総額の10%以上を原油が占めており、エネルギーの輸入依存が極めて高い。
3. インドは医薬品の輸出が盛んであり、その輸出額は国内で需要の高い金の輸入額を上回っている。
4. フランスとアメリカ合衆国は、ともに輸出総額に占める自動車の割合よりも、輸入総額に占める自動車の割合の方が高い。
- 問8 アメリカ合衆国のエネルギー事情と電源構成について、各発電形式の割合を示した数値の組み合わせとして、その産業的背景と照らして最も適切なものはどれですか。（2020年 三重県公立入試 類似）
1. 豊富な地下資源を背景に火力発電が約90%を占め、原子力発電はほとんど行われていない。
2. 化石燃料を主軸とした火力発電が約70%、技術的基盤を有する原子力発電が約20%である。
3. 広大な土地を利用した太陽光・風力などの再生可能エネルギーが、発電全体の約70%を占める。
4. 急峻な地形と豊富な雨量を利用した水力発電が、発電全体の約50%以上を占めている。
- 問9 アメリカ合衆国の工業発展の歴史において、ピッツバーグなどの都市が製鉄業で繁栄した背景を説明したものとして、地理的・歴史的な状況から考えて最も適切なものはどれですか。（2026年 三重県公立入試 類似）
1. 原料となる石炭の産地に近いことに加え、五大湖の水運を利用して鉄鉱石を運び込むのに有利な立地であったため
2. アパラチア山脈から得られる豊富な木材を燃料として、古くからの伝統的な製鉄技術を維持し続けたため
3. サンフランシスコなどの西海岸の都市と同様に、アジアから輸入される安価な石炭と鉄鉱石を加工する拠点となったため
4. 自動車産業が集積するデトロイトに近いことを利用し、メキシコ湾からパイプラインで運ばれる石油を主な燃料としたため
- 問10 北アメリカ州の五大湖沿岸に位置する都市デトロイトの、立地条件や産業の歴史について述べた説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 東京都公立入試 類似）
1. 18世紀から時計や医療機器などの精密機械工業が盛んで、アルプス山脈の豊富な水力を利用して発展した。
2. 南米のアンデス山脈に近い立地を活かし、古くからスズや銀などの鉱業資源を輸出する拠点として発展した。
3. 五大湖周辺の冷涼な気候を活かした酪農が盛んであり、乳製品を加工する食品工業が20世紀の経済を支えた。
4. 18世紀の建設当初は毛皮交易の拠点であったが、運河の整備を経て、20世紀には自動車工業が集積するようになった。
- 問11 アメリカ合衆国のピッツバーグが、世界有数の鉄鋼業の街として発展した地理的な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
1. 近隣で石炭と鉄鉱石を容易に得ることができ、五大湖などを結ぶ水上交通も利用可能であったから。
2. メキシコ湾沿岸で産出される石油と天然ガスを主な原料とし、パイプライン網が整備されていたから。
3. 安価な労働力が豊富に得られるメキシコとの国境付近に位置し、輸出拠点として有利だったから
4. 西部の山岳地帯で産出される金鉱や銀鉱の加工拠点として、内陸鉄道網が集中していたから。
- 問12 北アメリカ州では、人口の割合（約7.6%）に比べて穀物生産量の割合（約18.2%）が突出して高くなっています。このように、北アメリカ州が世界有数の食料供給地となり得ている背景として、農業の仕組みの面から説明した文として最も適切なものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
1. 乾燥した地域が多いため、オアシスや河川の周辺で自給を目的とした伝統的な農業が行われているため。
2. 広大な土地で大型機械を効率的に使い、少ない労働力で大量に生産する企業的な農業が行われているため。
3. 熱帯の気候を生かし、先進国の資本や技術を導入して特定の農産物を栽培するプランテーションが中心であるため。
4. 人口密度が高いため、限られた土地に多くの労働力を投入する集約的な稲作が行われているため。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>北アメリカ大陸                                                 | 北アメリカ大陸は、アラスカやカナダなど高緯度地域に広大な陸地を有しているため、他の中低緯度を中心とする大陸に比べて、亜寒帯や寒帯の占める割合が圧倒的に高いという特徴があります。これに対し、アフリカ大陸やオーストラリア大陸は乾燥帯の割合が高く、南アメリカ大陸は熱帯の割合が高いという異なる特徴を持っています。                                                                                                  |
| 問2  | 答え 2<br>北アメリカ州                                                  | 大豆やとうもろこしの生産で世界的に高いシェアを持っているのは北アメリカ州（主にアメリカ合衆国）の特徴です。北アメリカ州では小麦の生産も盛んですが、大豆やとうもろこしほどの占有率ではありません。また、カカオ豆は低緯度の熱帯地域で栽培される作物であるため、温帯から冷帯が中心の北アメリカ州ではほとんど生産されません。                                                                                               |
| 問3  | 答え 3<br>アメリカ合衆国                                                 | アメリカ合衆国は、ロシアやカナダに次ぐ広大な国土面積（約983万km <sup>2</sup> ）を持つとともに、太平洋・大西洋・北極海という複数の海洋に面し、さらにハワイ諸島などの離島を多く所有しているため、排他的経済水域も極めて広大になります。ブラジルも広大な国土を持ちますが、アメリカ合衆国と比較すると排他的経済水域の規模は小さくなります。また、日本やニュージーランドは国土面積に比べて排他的経済水域の割合が非常に大きいという特徴がありますが、国土面積そのものはアメリカ合衆国に遠く及びません。 |
| 問4  | 答え 2<br>五大湖周辺の冷涼な地域では、乳牛を飼育して生乳やバターなどを生産する酪農が盛んである。             | アメリカ合衆国の農業は「適地適作」が徹底されています。五大湖周辺は冷涼な気候で牧草の生育に適しており、ニューヨークなどの大消費地にも近いため酪農が発達しました。西海岸の地中海性気候の地域では、夏季の乾燥と日照時間を活かしたぶどうなどの果樹栽培、温暖な南部では古くから綿花栽培が盛んに行われています。                                                                                                      |
| 問5  | 答え 2<br>広大な国土と高度な技術を背景に、トウモロコシなどの農産物や航空機などが多く輸出されている。           | アメリカ合衆国は「世界の食糧庫」と呼ばれるほど農業が盛んであり、広大な国土での大規模な機械化農業により生産されたトウモロコシや大豆が日本へ大量に輸出されています。また、世界先端の科学技術を背景に航空機などの高付加価値な工業製品の輸出も盛んです。原油は中東諸国、衣類はアジア諸国、天然ゴムは東南アジア諸国との貿易において特徴的な品目であり、アメリカ合衆国の輸出構造とは異なります。                                                              |
| 問6  | 答え 3<br>アマゾン盆地を中心とした広大な熱帯林の減少により、二酸化炭素の吸収源が失われている。              | 南アメリカ州において、人口比に対して二酸化炭素排出の統計上の割合が高くなる要因の一つとして、アマゾン川流域における熱帯林の過度な開発が挙げられます。森林は二酸化炭素を吸収して蓄える役割を果たしますが、農地開発や木材輸出のために森林が伐採・焼却されることで、排出量の増加や吸収能力の低下を招き、地球温暖化を加速させる要因となっています。                                                                                    |
| 問7  | 答え 4<br>フランスとアメリカ合衆国は、ともに輸出総額に占める自動車の割合よりも、輸入総額に占める自動車の割合の方が高い。 | フランスの貿易データでは、自動車の割合が輸出で8.7%、輸入で10.9%となっており、アメリカ合衆国でも輸出で7.1%、輸入で10.4%となっています。このことから、両国とも自動車については輸入の割合の方が高いことがわかります。他の選択肢について、この年の統計では原油の輸入が10%を超える国は確認されず、またインドの医薬品輸出額が金の輸入額を上回るという事実も、提示された統計上のバランスとは異なります。先進国であっても特定の主要工業製品が輸入超過になる現象を把握することが重要です。        |
| 問8  | 答え 2<br>化石燃料を主軸とした火力発電が約70%、技術的基盤を有する原子力発電が約20%である。             | アメリカ合衆国は世界最大の経済規模を持ち、膨大な電力を必要とします。そのため、供給が安定している火力発電を主力（約7割）とし、次いで原子力発電（約2割）を組み合わせる電源構成をとっています。フランスのように特定の電源（原子力）に7割以上依存したり、カナダのように水力発電が主流（約5割以上）になったりする国と比較すると、化石燃料資源と高度な技術力の双方をバランスよく活用している実態が読み取れます。                                                    |
| 問9  | 答え 1<br>原料となる石炭の産地に近いことに加え、五大湖の水運を利用して鉄鉱石を運び込むのに有利な立地であったため     | 製鉄業は重量のある石炭と鉄鉱石を大量に消費するため、それらの輸送コストが低い場所に成立します。ピッツバーグはアパラチア炭田の北端にあり、さらに五大湖を経由してミシガン州やミネソタ州の鉄鉱石を運べるルート上にあったため、重厚長大産業の拠点となりました。デトロイトは自動車、サンフランシスコはICT（情報通信技術）やシリコンバレーに関連する都市であり、背景が異なります。                                                                    |
| 問10 | 答え 4<br>18世紀の建設当初は毛皮交易の拠点であったが、運河の整備を経て、20世紀には自動車工業が集積するようになった。 | デトロイトは北米五大湖付近という水運に恵まれた立地にあります。18世紀のフランスによる毛皮交易拠点としての建設に始まり、19世紀には運河によって東部との結びつきが強まりました。20世紀には、この立地と交通網を活かして部品や製品の輸送が行われ、自動車工業の集積地となりました。なお、精密機械はスイスのジュネーブ、鉱業はボリビアなどの説明で用いられることが多く、混同に注意が必要です。                                                             |
| 問11 | 答え 1<br>近隣で石炭と鉄鉱石を容易に得ることができ、五大湖などを結ぶ水上交通も利用可能であったから。           | ピッツバーグは、アパラチア炭田の石炭や五大湖周辺の鉄鉱石という、鉄鋼生産に不可欠な資源の産地が近接していました。これに加え、五大湖や河川などの水上交通を利用して重量物である原料を効率よく運搬できたことが、巨大な工業地帯へと成長する要因となりました。                                                                                                                               |
| 問12 | 答え 2<br>広大な土地で大型機械を効率的に使い、少ない労働力で大量に生産する企業的な農業が行われているため。        | 北アメリカ州、特にアメリカ合衆国などでは、気候条件に合わせた「適地適作」が行われるとともに、航空機による農業散布や大型トラクターの導入など、高度に機械化された大規模な商業的農業が展開されています。これが、自国の人口を養うだけでなく、世界中に穀物を輸出できる要因となっています。                                                                                                                 |